

学校だより



市川市立平田小学校

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する そして共に幸せ～

いなほ
稲穂

学校教育目標

夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

No.24

令和5年2月16日

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho>

学校評価アンケートのご意見をもとに来年度を見据えていきます

いただいたご意見すべてを教職員で共有しました。すべてを掲載することはできませんが、回答も添えて紹介させていただきます。ありがとうございました。

文言は多少変えてあります

【学校対応】

- * 授業参観や保護者面談で学校の様子がわかり、充実して過ごせていると感じる。面談では細かい変化も知ることができ、クラス全員に同じように愛情をもってよく見てくれていることを純粋にすごいと感じる。
- * 子供の話から授業中や休み時間の楽しそうな様子が伝わる。吹奏楽でもいろいろな形で発表の機会を設けてくれることに感謝。
- * 担任との情報交換のために、連絡帳以外につながるためのツールがほしい。
- * 先生によって対応がまちまちの感がある。連絡関係やいじめ・いじりなど丁寧に対応してほしい。
⇒ 学校・学年経営の方針や活動の目的から外れない範囲で、学級担任の裁量に任される部分は少なくありません。しかし、家庭と学校との信頼がベースとなって児童の健やかな成長を促し支えていきますので、きめ細かで丁寧な対応が求められます。児童が安心して学校生活を送れるように、全教職員が心して取り組んでいきます。
- * 次年度のスキー合宿がなくなって残念である。いま一度考え直してほしい。保護者アンケートをとってほしかった。
⇒ 学校行事一つ一つに目標があります。5年生の宿泊学習を見直したのは感染症が大きな要因ではありますが、個のスキルアップを大事にしながら、より集団としての学びや創造の過程を盛り込むことが必要と考えたからです。



【健康・安全】



- * 黙食やマスク着用など、政府の言うことをすべて受け入れるのではなく、先生同士や保護者アンケート等、議論の場があってもよいと思う。答えを出すことが目的ではなく、開かれた議論をする。それで十分な一歩になると思う。
⇒ ガイドラインに沿いながらも、学校に任される部分は様々な意見を参考にしています。黙食の見直しは、児童の有志が集まって様々な思いがあることをふまえたアイディアが出されています。マスクに関しては、必要とされる場面を限定しながら、個々の判断も尊重する対応にしていきたいと考えます。
- * 休み時間や体育で、顔・肩・肘・ひざに深手のケガを負っている。ひどいときはケロイド上になる。半袖半ズボンだけでなく、長袖長ズボンの運動着を取り入れたほうが良い。また、保健室での負傷者数には、深い傷を負った人数がわかるように公表するとよい。

【特別支援教育】

- * 特別支援学級の子供たちとも一緒に学ぶ体制を作ったほうがよい。柔軟な考えと心を持つ小さ

いうちから一緒に過ごすことで、同じところや違うところを子供たちなりにとらえて共に育っていくと思う。「別々」「見せない」ではなく、配慮しながら極力同じ空間で過ごし、遊びや学びのスピードが違うことも見せながら一緒にやっていくことが、よりよい社会を作っていく子供が育つのではないか。「違うことを受け入れる」「理解しようとする」という感覚は大事だと思うので、そうした環境で育ってほしいと願う。

- * 特別支援学級と通常学級とが分断されている印象を受ける。授業内容によってフレキシブルな対応・交流ができる体制があるとよい。

⇒ 2月には、1年生とたんぼぼ学級の節分交流をしました。また、普段から個別に通常学級との交流を行っていますが、相互理解・尊重および双方の心の成長につながることを意図しながら、よりよい体制について検討していきます。

【情報】

- * 手紙類をHPから確認できるようにしてほしい。または、配付した手紙一覧を掲載してほしい。
- * 学校だより・学年だより・保健だよりなどを通して、学校のことだけでなく日々の生活に役立つことなどを知ることができて助かっている。
- * 勤務している保護者にとって、1か月前には情報共有されないと日程調整が厳しい。

⇒ 年度当初に年間行事計画を配付するとともに、HPに掲載しています。また、ひと月前には案内を配付できるようにしていますが、詳しい時間帯や内容については、直近になってからでないとお知らせできないものもあります。



【その他】

- * 講師を招聘した授業について、内容や講師の方をどのように選んでいるのか伺いたい。
⇒ 教科等の内容理解あるいは目標に向けて、専門的な立場や身をもって体験した方を様々な情報や評価をもとに選んでいます。直近では、パラアスリートやスポーツクラブ、点字指導者ほか、被爆体験者、雅楽演奏者など幅広くお願いして、感動や実感が伴う学習の場になるように計画的に組み入れるようにしています。
- * 朝の安全指導中に急に雨が降り出し、濡れながら当番活動をしている私を見て「大丈夫ですか？」と声をかけてくれた。優しい気づかいがある一方、挨拶しても返ってこないことも多いと感じる。
- * パンフレット類が募集開始日を過ぎて配付されることが多い。子供が楽しみにしているので、募集開始日より前に配付してほしい。
- * 学校評価アンケートを6月末と12月の短期で2回行っても、回答はさほど変わらないのではないか。回答率が低かったこともそこに起因するのではないか。まだ行われていない3学期の取り組みも含めて評価することにも無理がある。2回であれば、実施時期を9月と3月というようにしてはどうか。また、子供が複数いる家庭の場合の保護者アンケートは、それぞれに回答することに面倒と感じてしまわないか。
- * PTA活動を行うにあたり、学校側との連絡手段や施設使用時間帯などがかなり制限される。仕事を持つ保護者が多い中活動しにくい状況にあると思う。

⇒ 今年度もPTA活動に多大なるご協力をいただき感謝します。保護者も学校職員もそれぞれの時間を割いてPTA関係業務を行っています。ご存じのとおり、学校にも勤務の時間があります。ですから、相互理解とコミュニケーションを大事にして、児童の笑顔を思い描きながらともに活動していきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。



登下校中の児童の様子を見ると、2~3人で歩道いっぱいに広がって歩いたりふざけていたりすれ違う人や後方を歩く人の迷惑になる姿が散見されます。また、下校時に白門から歩道へ飛び出してぶつかりそうになる場面もあります。公園等の使い方も含めて指導をしています。ご家庭でも気にかけていただきたいと思います。